

ニカラグア・ハリケーン被害の状況

9月4日ニカラグアに上陸し、甚大な被害を引き起こしているハリケーン「フェリックス」の被災者に対して、WFPはハリケーン上陸当日から支援を行っています。



被災後のニカラグア

今回のハリケーン「フェリックス」では、10万人もの人々が被害に遭ったと推定されています。被害を受けた1万戸の家屋のうち80%は全壊。井戸5200基が汚染され、野外トイレ6000基も損壊しました。下痢の症状を示す子どもたちが増えており、衛生状態の劣化が懸念されています。また、ココナッツ、バナナ、マンゴー、米など人々の基本的な食糧となる作物が大きな被害を受けたほか、耕作地の塩害により12月期の収量も大幅に減少すると予測されています。



人々へ届けられる食糧

WFPはハリケーンが発生した今月4日には緊急食糧支援を開始し、5日には、900人に対する10日間分に相当する4.5トンの豆、米、食用油、大豆とトウモロコシの混合粉などを空輸。さらに約151トンの食糧(1万5000人に対する20日分)がニカラグア北部のビルウィの港へ届けられました。また13日には被災者10万人を支援するため、WFPは1700万米ドル(約20億円)の拠出を要請すると発表しました。今後3ヶ月間は緊急時用の配給を行い、その後復興支援へと移行していく予定です。



ニカラグアへ到着した支援物資



WFPからの支援を受け取るニカラグアの子ども



報告:「たべる、たいせつフェスティバル2007」

「生きることの基本はたべること」をテーマとした日本生活協同組合連合会主催のイベント「たべる、たいせつフェスティバル 2007」。全国の生協をはじめ、食品に関係する150以上の団体・組織が出展したこのイベントに、WFPも参加しました。

8月27・28日に東京国際フォーラムで行われたフェスティバルの会場では、WFPについての展示や催しが行われ、2日間で2万7,000人を超える来場者に、世界の飢餓状況とWFPの食糧支援活動についてお伝えすることができました。



「世界の食コーナー」のWFP紹介スペース

日本とアフリカの食生活を比較する「世界の食」コーナーでは、WFPの飢餓撲滅大使でマラソンにおける世界記録保持者ポール・テルガト選手の出身小学校の話や、世界の学校給食の様子などが、写真とともに紹介されました。



展示されたテルガト選手のパネル

また、WFP日本事務所・玉村美保子代表と国連WFP協会顧問・竹下景子さんのスペシャルトークでは、会場を埋め尽くした聴衆に向けて、食糧支援の意義が二人の言葉で分かりやすく語られました。

他にも子ども向けのワークショップ、食糧支援物資や写真パネルを展示したブースなどを通じて、来場した皆様に飢餓とWFPの活動について理解を深めていただくことができました。



会場でのWFP展示ブース



子ども向けワークショップには多くの親子連れのみなさんに参加いただきました。

TABLE FOR TWO ～企業に広がる学校給食支援プロジェクト～

最近、「TABLE FOR TWO」という名前の学校給食支援プロジェクトが、日本の企業の間で広がりつつあります。これは、企業の社員食堂などにおいて、低カロリーで栄養バランスのよい健康的な食事をする際に、その食事の収益の一部（一食あたり20円程度）がWFPなどの学校給食事業に寄付されるという、社員参加型の社会貢献プログラムです。



©TABLE FOR TWO

(左)TABLE FOR TWO のロゴ



©TABLE FOR TWO

(右)TABLE FOR TWOが実施された社員食堂

飽食による生活習慣病やメタボリック症候群が問題となる国がある一方で、食糧不足に苦しむ国があるという、世界の食の不均衡。「TABLE FOR TWO」はこの2つの問題を同時に解消することを目指す運動です。運動名「TABLE FOR TWO」は「二人用の席」という意味で、「先進国の人と、途上国の人が、一緒に健康的な食事をする」という意味が込められています。

このユニークな運動を発案したのは、ダボス会議で知られる「世界経済フォーラム」(注1)により選出された日本の「ヤング・グローバル・リーダーズ(YGL)」たちです。

第1号のパイロットプロジェクトは2007年2月5日から16日まで、伊藤忠商事の社員食堂で行われ、食堂利用者のおよそ3分の1が「TABLE FOR TWO」の特別メニューを注文しました。売り上げからの寄付金に加え、それと同額を伊藤忠商事が会社として寄付しました。

その後も、日本IBM、ファミリーマート、日本航空、横浜市役所、NECなどが「TABLE FOR TWO」を実施。さらにこの9月に中国・大連で開かれた「世界経済フォーラム」の夏季会議では、世界から集まった経営者らに対してこのプロジェクトの説明と参加の呼びかけが行われました。近く、アメリカやイギリスでも活動が始まる見込みです。

先進国と途上国の人々をつなぎ、ともに健康な食生活を目指すというこの運動。すでにNHKや朝日新聞などでも取り上げられ、注目を集めています。参加企業を募っているということです。ご興味のある方は下記ホームページより「TABLE FOR TWO」事務局までご連絡下さい。

「TABLE FOR TWO」ホームページ(英語)

<http://www.tablefor2.org/index.html>

(注1) スイスに本拠地を置く非営利組織。企業経営者など各国のリーダーたちが結集し、世界の諸問題の解決のための提言をしている。



©TABLE FOR TWO

提供されたメニューの一例



私たちのWFP支援

日頃WFPをご支援いただいている企業・団体の取り組みをご紹介します。

ベネトン ジャパン株式会社 ～ファッションで社会問題を世に広げる～



完成した冊子の表紙

WFPの学校給食支援を分かりやすく説明した冊子「WFPの学校給食プログラム」が、ベネトンジャパン支援のもと完成しました。WFPは今回の冊子だけではなく、これまでも世界規模でベネトンにご支援を頂いています。

1965年、イタリアで創業されたベネトンは、ベネトンカラーと呼ばれるカラフルな色が特徴のアパレルブランドです。しかしファッションのみを追求するのではなく、「企業は社会的な責任を果たすべき」という創始者ルチアーノ・ベネトン会長の信念のもと、常に人々に社会的メッセージを訴え続けてきました。

そうしたベネトンとWFPの取り組みが始まったのは2003年。WFPの食糧支援活動の目的のひとつである「Food for Life (生命維持を目的とした食糧支援)」というフレーズのもと、世界30カ国以上で飢餓問題に関する広告キャンペーンを展開し、「Hunger(ハンガー)」という冊子も作成して頂きました。世界各地の広告掲示板や新聞に掲載された写真やストーリーは、暴力、差別、貧困から逃れようとする人々の苦難と、そこに食糧が果たす役割の重要性を伝えています。



「Food for Life」キャンペーンの広告作品

こうしたベネトンからの強いメッセージは、普段このような問題を意識することが少ない人々にも、飢餓問題やWFPの活動に関心を持ってもらうきっかけとなりました。

ベネトンはまた、未来ある子どもたちこそ重要であると考え、WFPの学校給食プログラムを支援しています。「WFPの学校給食プログラム」冊子作成の他にも、1クリックで1円、WFPに募金ができるクリック募金のスポンサーとなったり、チャリティーTシャツを販売したりして、WFPの学校給食プログラムに貢献して下さいました。

ファッションが持つメッセージ性の高さで、WFPの使命である飢餓と貧困の撲滅にともに取り組んで下さるベネトンに感謝します。更なる情報は、ベネトンのホームページをご参照下さい。

ベネトンホームページ: <http://www.benetton.co.jp/>

Food for Life広告キャンペーン:

<http://www.benetton.co.jp/company/ad/foodforlife.html>

ベネトン広告キャンペーン:

<http://www.benetton.co.jp/company/ad.html>

ベネトンスポンサークリック募金:

<http://clickbokin.ekokoro.jp/50.html>

学校給食プログラム冊子(ここからダウンロードできます): <http://www.wfp.or.jp/activities/sfp2007.pdf>



今後の予定

10月16日は「世界食糧デー」。これは世界の人々に食糧の重要性を考えてもらい、飢餓や貧困のない世界にしていくために国連が定めた記念日です。そうしたこともあり、10月はさまざまなイベントが予定されています。皆さまのお越しをお待ちしています。

WFP事務局長来日記念講演決定

2007年4月にWFPの事務局長に就任したジョゼット・シーランが、この10月に初来日します。これに合わせて、来日記念講演を下記概要にて開催します。当日は、ジョゼット・シーラン事務局長の講演に加え、国連WFP協会の丹羽宇一郎会長（現伊藤忠商事株式会社取締役会長）の講演も予定しております。両者は、気候変動など現在WFPが直面している課題や今後の活動方針、日本の企業に期待されるCSR（企業の社会的責任）活動などについて話をする予定です。参加をご希望の方は、下記に従ってお申し込みください。

日時：2007年10月10日（水）17:30～18:30 受付17:00開始

場所：UNハウス（5F エリザベス・ローズ会議場）

（<http://www.unu.edu/hq/japanese/access/index.html>）

〒150-8925 東京都渋谷区神宮前5-53-70

各線渋谷駅徒歩8分、

東京メトロ表参道駅出口B2徒歩5分



丹羽会長



シーラン事務局長

参加方法

seminar@jawfp.org宛に、「WFP事務局長来日記念講演申し込み」の題名で、氏名、年齢、勤務先（もしくは学校）、住所、電話番号、e-mailアドレスをご記入の上、メールをお送りください。追って、お申し込み完了の返信をお送りさせていただきます。

*定員になり次第、締め切りとさせていただきます。

ジョゼット・シーランWFP事務局長の略歴

2007年4月、WFP 11代目事務局長に就任。WFPの事務局長に着任する以前は、米国国務省で国務次官として、開発や貿易、農業、財政、エネルギー、通信、運輸などの経済問題を担当。特に、開発途上国の経済的自立と繁栄を支援するための経済外交に重点的に取り組みました。それより以前には、米国通商代表部の副代表、ウォール街で有数のテクノロジー企業の代表取締役、加えてシンクタンクの代表兼最高経営責任者も務め、開発途上国の経済強化に取り組みました。また、報道分野でも活躍し、米国主要紙編集長やピューリッツァー賞審査員を務めました。



今後の予定

学校給食パネル展『WFPの学校給食プログラム～子どもたちに食糧と未来を～』

過去40年間にわたりWFPが世界各地で実施してきた「学校給食」に焦点をあてたパネル展『WFPの学校給食プログラム～子どもたちに食糧と未来を～』を開催致します。

学校給食プログラムは、開発途上国の学校で栄養価の高い給食を提供することにより、子どもたちを学校に呼び寄せ、身体の発育を助けると同時に、就学率・出席率を向上させるというものです。今回のパネル展はこのプログラムを広く一般の方々に理解してもらうことを目的としています。学校給食の様々な意義を分かりやすく説明するとともに、メニュー例や、スーダン・ケニア・アフガニスタンなど、各国でのWFPの学校給食支援活動を具体的に紹介します。

パネル展示のほか、食糧支援を受ける子どもたちによって描かれた絵、支援に用いられている食糧も展示する予定です。また、「一枚のビスケットが、未来へのチケットになる」というキャッチフレーズの下に展開されている、AC公共広告機構の支援によるWFP公共広告キャンペーンの撮影裏話、撮影舞台となったインドネシアの状況を紹介するコーナーも設ける予定です。

日時:10月5日(金)～11月5日(月) (平日のみ)
10:00～17:00、入場16:30迄 (最終日入場15:00まで)
場所:国連大学1・2階、UNギャラリー
(<http://www.unu.edu/hq/japanese/access/index.html>)
入場:無料
主催:WFP 国連世界食糧計画日本事務所
認定NPO法人国連WFP協会
協賛:株式会社リコー
協力:AC公共広告機構
株式会社電通



昨年のパネル展でメモを取る子どもたち

JICA地球ひろばでWFPパネル展開催

東京・広尾にあるJICA地球ひろばで、WFPパネル展『明日をつくるWFPのごはん』を開催します。

小学校高学年以上を対象に、飢餓の原因やWFPが飢餓問題解決のためにどのような活動をしているかを、わかりやすい言葉と豊富な写真で説明しています。また、同ひろばではこの期間、「人間の安全保障～世界の幸せと悲しみ Part 未来を作る学校給食」と題し、上記のWFPパネル展とはまた別の、学校給食に関する展示を行います(10月16日(火)～11月18日(日))。あわせてご覧下さい。

日時:2007年10月16日(火)～10月28日(日)
10:00～20:00(土・日・祝日 18時まで) 月曜休館
場所:JICA地球ひろば 東京メトロ日比谷線 広尾駅下車(3番出口)徒歩1分
(<http://www.jica.go.jp/hiroba/index.html>)

発行: WFP日本事務所
特定非営利活動法人 国連WFP協会